

## まちづくり会議「歴史まちづくり部会」運営資料

## 参照・・・「歴史まちづくり部会」活動について

歴史まちづくり部会長 松竹昭彦

## ■第1日目

## ○連合会「歴史まちづくり部会」からの問題提起

歴史的資産を活かしたまちづくりには様々な素材や切り口(アプローチ)の取組みが考えられます。別の言い方をしますと、歴まち活動に定められた定義は無く、各地域それぞれがそれぞれの地域特性を活かして取り組まれれば良いのでしょうか。また、その内容は他の部会の要素も含まれる事は当然で、行政やそれぞれの専門分野・団体等との連携も必要です。

その様な中、今我々が生活する中にある歴史的資産は、法的な措置も変わって来た様に、維持保全(残し守る)と同時に利活用(活かし使う)ということが重要になりました。つまり、我々建築士会におけるヘリテージマネージャー活動や歴史まちづくり活動は大変意義ある活動ということになります。

建築士会連合会では、これまでの歴まち活動に加え、ヘリテージマネージャーが全国に誕生した今、歴史的素材の利活用するまちづくり活動が大きく進展できる土台ができましたので、その動きも連動し更なる活動の飛躍を期待したいところです。

そこで、今回のまちづくり会議において、歴まち部会として様々なことを考え学んで頂けると幸いです。中でも意識して頂きたい点として以下をあげさせていただきます。

歴史的建造物を利活用するという事は、

◎どうということなのか・・・皆さんが生活するまちにおける歴史的資産の意味

◎どうしたらいいのか・・・建築士、建築士会(単位建築士会・連合会)としての取組み

- ・相談窓口の必要性(例:歴史的建造物委員会)
- ・相談体制確立のための人材養成や育成その確保

## ■第2日目

## ○分科会／「歴史まちづくり部会」・・・課題解決へ向けての展開を探る～50年先の未来に向けて

## 内容

- ・説明 歴史まちづくり部会(部会長:松竹昭彦)
- ・講話 テーマ「大地震を経験された神戸のまちづくりにおける歴史的建造物の意味」  
浜田 有司 氏(神戸市役所)
- ・講話 テーマ「岡山県歴史的建造物委員会の取組みと歴史的まちづくり」  
中村 陽二 氏(岡山県建築士会)
- ・討議 テーマ「未来に向けての取組み」  
※少人数のテーブル討議(ミニワークショップ)形式の討議